

製品名: FKBP1B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11003**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

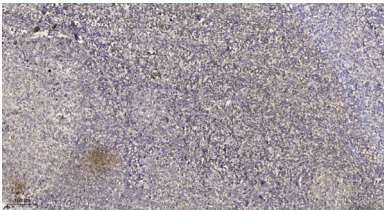
遺伝子名	FKBP1B
別名	Peptidyl-prolyl cis-trans isomerase FKBP1B (PPIase FKBP1B;EC 5.2.1.8;12.6 kDa FK506-binding protein;12.6 kDa FKBP;FKBP-12.6;FK506-binding protein 1B;FKBP-1B;Immunophilin FKBP12.6;Rotamase;h-FKBP-12)
遺伝子 ID	2281.0
SwissProt ID	P68106
免疫原	ヒト FKBP1B 由来の合成ペプチド アミノ酸範囲: 35-85

背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、免疫調節およびタンパク質のフォールディングと輸送に関わる基本的な細胞プロセスに関与するイムノフィリンタンパク質ファミリーのメンバーです。このタンパク質は、免疫抑制剤 FK506 およびラパマイシンに結合するシス-トランスプロリルイソメラーゼです。FK506 結合タンパク質 1A と高い類似性を示します。その生理学的役割は、心筋における興奮収縮連関にあると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが存在します。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ペプチジルプロリン (オメガ=180) =ペプチジルプロリン (オメガ=0)。,酵素調節: FK506 とラパマイシンの両方によって阻害される。 ,機能: 心筋筋小胞体のリアノジン受容体 (RyR-2) に結合し、心筋の興奮収縮連関において独自の生理学的役割を果たす可能性がある。心筋 RyR 1 つあたり FKBP12.6 分子が 4 つ存在する。FK506 とラパマイシンの免疫抑制効果と毒性効果に寄与する可能性を有する。PPIase はタンパク質の折り畳みを促進する。オリゴペプチド中のプロリンイミドペプチド結合のシス-トランス異性化を触媒する。 ,類似性: FKBP 型 PPIase ファミリーに属します。FKBP1 サブファミリー。 ,類似性:1 つの PPIase FKBP 型ドメインを含む。 ,組織特異性:両方のアイソフォームに遍在し、最も高いレベルは脳と胸腺に存在します。 ,

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。